

## 2 子どもを育てることの喜びと責任

(1) 子どもを育てることの素晴らしさや喜び、かけがえのないものだと思感すること

大切な家族の  
一員だから

家庭は、一方では人間を産み育てるところ  
疲れた自分を癒す、安らぎの場。  
しかし、もう一方では、つながりの深さゆえに  
人を苦しめ、ゆがめる場ともなる。  
他人だったら、そんなことはないのに  
家族ゆえに  
家族だからこそ  
思いがあり、願いがあり、愛があるから  
そこに「ゆがみ」が生じる。  
他人だったら、絶対そんなことはないのに…

孟子は  
君子の第一の楽しみとして  
—父と母がともに健在で  
兄弟もつつがなく過ごしている  
ことをあげている。

でも、これは、だれにとっても  
いつまでも続くものではない。  
早いか遅いかはあつたとしても…

居ることがあたりまえではない家族。  
いま、もう一度  
その思い、その願い  
それぞれの愛をしっかりと受け止めよう。  
そして、自分からも愛を、贈ってみよう。





**あなたのイメージ**

どんな雰囲気の家が理想か?  
年 月 日

子どもにはどうあってもらいたい?  
年 月 日

家族へのメッセージ

### いつかはあなたも新たな家庭をつくる

どんな一日であつたとしても、あなたが帰っていくところ。  
そこは空欄としての単なる「すみか」だと  
思っているかもしれないけれど  
あなたにとってかけがえのないところであるはず。  
ここが心地よければ  
よりよい生活が送れるに違いない。  
自分自身と家族とのいまの在り方をふまえながら  
いつか、あなたが築く家庭像をイメージしてみよう。

# いのち 生命を考える

生命とは何なのか。  
いま、自分がここに息づいていることの偶然性。  
そして、一度しか抱きしめることができないという有限性。  
さらに祖先から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性。  
——生命とは何なのだろう。

私たち人間ばかりではなく  
生きとし生けるものすべてに  
思いをはせてみる。

その残り時間を意識したときに  
生命に対するいとおしい思いが深まるというけれど  
いまの私たちにだって、きっとできるはず——。  
生命とは何なのかを考えること。



## 生命を考える 連続性

# ずっとつながっていること



この生命は私のもの。  
だれのものでもない、かけがえない私のもの。  
でも、どこからやってきたのだろうか。  
——そう

これは私が受け継いだもの。  
ずっとずっと遠い遠いむかしから受け継がれ  
受け継がれて、私が受け取ったもの。

この生命は私のものだけれど  
私だけのものではない。

私は生命という継を受け取り  
人生という長いコースを走りきらねばならぬ駅伝走者。  
転んでも、立たななきゃならない  
くじけるわけにはいかない。  
継を私に届けてくれた人たちのためにも  
そして私の継を  
持っている人たちのためにも。

## 2 子どもを育てることの喜びと責任

(1) 子どもを育てることの素晴らしさや喜び、かけがえないものだ実感すること